

エムエスピーの履歴書

水谷政司 33

インテルという会社は皆さん聞いたことが有ると思います。

この会社はパソコンの心臓部 CPU を製造している会社で、

「インテル入ってる」のコーシヤルが、今も流れている有名な会社です。

インテル会長のゴードン・ムーア氏が提唱した「ムーアの法則」は、集積回路上のトランジスタ数が約2年ごとに倍増するという法則で、とみに有名でした。集積回路とは多数の電子部品（トランジスタ、抵抗、コンデンサなど）

を一つの半導体チップ上に集約したものです。が、集約するために必要な線密度は、半導体チップ内部の配線密度の濃

『インテル絶好調の時代』

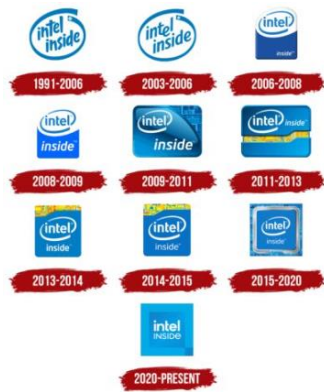
ムーアの法則を知っている人は居るだろうか？

さと同義語の線密度で表され、単位面積あたりにどれだけ多くの回路やトランジスタが配置されているかを示す指標です。

現在の線密度は線幅のナノミクロンと言われているのですが、エムエスピー創業時のそれは 800

ナノミクロンくらいだったと記憶しています。指標はPCのスピードと容量において、格段の進歩と同一歩調を歩みます。このインテル絶好調の時代と同じくして、エムエスピーも飛躍的に歩みを進めました。米マイクロソフトも

この流れに乗り絶好調でした。アスキーマイクrosoftでは、西氏を始め郡司氏や成毛氏等多彩な人が社長を歴任し継投しながら拡大していた時代です。エムエスピーにおきましても、この時代は激変の時代でした。登録行



政では、OCR用紙からの脱却で「FD登録」や各県別であった税用紙が「統一税申告書」としてフォーム統一が図られたり、紙登録から「OSS登録」への切替

であったりと、激動を肌で感じる時代でした。従って、アプリライタにおいて行政に対応したシステムの更新を始めたとして、現在も主力となつています。会員と自販連をデータでつなぐWEB方式が大きく花

開いた時代といえます。トヨタ自動車の ai21 やダイハツの ADVANS 等社内システムと登録システムとの連携が代表的で、会員と自販連が WIN-WIN の関係となるシステムの始まりを迎えることとなります。

この時代に作成したWEB系の希望番号、メール配信、登録番号付与のシステムや ai21、ADVANS、OSSの展開などが好循環に働き、自販連様におけるアプリライタのシェアが爆発的に拡大する期間に入ることとなります。今回は ai21、OSS システムについて当時の状況を説明することとします。

(エムエスピー相談役)